

令和 8 年 6 月 30 日

大阪市長 横山 英幸 様

地方独立行政法人天王寺動物園
理事長 山中 諄

令和 7 年度の業務実績にかかる自己評価について

令和 7 年度の業務について自己評価を行いましたので、成果や課題などについて、以下のとおり概要を報告します。

【前提】

- 動物園の業務を以下の 3 つの分野に分類し、それぞれ中期目標に示されたあるべき姿を以下のとおり整理した。

分野	あるべき姿（中期目標抜粋）
1 動物園の本来事業	展示動物の充実
	飼育技術の高度化
	種の保存
	施設の整備・適正な維持管理
	来園者の行動変容を促す教育活動
	調査研究の推進
2 動物園の魅力向上	魅力発信の強化
	来園者サービスの充実
3 経営・組織・運営	機動的かつ柔軟な組織体制
	人材の確保・育成
	業務の効率化
	事故の未然防止・迅速な対応
	自己収入の確保
	独法の優位性を活かした経費節減

- 分野ごとの中期目標で示されている姿に近づくべく、努力した点、成果の上がった点、今後の課題などを以下に示す。

1 動物園の本来事業について

① 展示動物の充実

【努力した点や成果】

- コレクション計画カテゴリ S のアジアゾウについて、平成 26 年の春子死亡以降、12 年間にわたり国内外の様々な関係機関と粘り強く調整を重ねてきた結果、令和 8 年 3 月にマレーシアから 3 頭の導入を達成した。また、導入直後の公表により SNS 等で話題となるなど、園の魅力向上に大きく貢献した。
- 令和 7 年 6 月、カテゴリ S のアムールトラを多摩動物公園より、カテゴリ A のケープハイラックスを京都市動物園より導入し、いずれも天王寺動物園として約 2 年ぶりとなる展示再開を実現した。
- また、海遊館よりコレクション計画カテゴリ B のグリーンイグアナを 1 頭譲受し、展示に加えることで、日本の生態系に影響を与える外来生物について来園者に理解を深めてもらうことができ、天王寺動物園の動物展示の魅力向上に貢献した。

【課題】

- 今後もコレクション計画に基づく動物の導入に関して、国内外他園館等と調整し、粘り強く取り組んでいく必要がある。

② 飼育技術の高度化

【努力した点や成果】

- 日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という）の生物多様性委員会、安全対策委員会、総務委員会、教育普及委員会において、今年度においても当園の職員 11 名が種別管理者、専門技術員もしくは部員としての受嘱を継続し、8 種の動物種における繁殖計画推進会議に参画しており、JAZA に貢献することで、職員の知見深化とともに園の信頼向上にもつながった。
- 第 8 回野生動物保全繁殖研究会大会（7/23～7/24）をホスト開催した際には、自園での開催ということで、大会長（園長）を始め多くの職員が研究会に参加することができた。これにより、今回のテーマとなった保全繁殖に関する多くの知見が得られたことで、職員の研究テーマに新たにホルモン分析が追加されるなど職員の意識醸成にも大きく寄与した。
※参加者 118 名（動物園水族館関係者、野生動物保全関係者、関連分野の大学・専門学校の先生および学生）。
- 環境省主催の「動物園等における高病原性鳥インフルエンザ対応のための現地実務講習会」を 10 月に天王寺動物園を会場として開催し、高病原性鳥インフ

ルエンザ対策に関する実地演習を行うとともに、鳥類飼育施設における防疫体制に関するガイド説明等を実施するなど、参加者間での知見の共有を行うことができた。

- 飼育技師試験において、10年以上の実務経験が必要で、中堅・管理職向けに実施されている飼育技師（上級）試験に新たに3名が合格した。

【課題】

- JAZAでの活動で習得した知見を引き続き日々の飼育作業に反映し、さらなる安全性向上や動物福祉の向上につなげていく必要がある。
- 引き続き飼育技師試験において上級試験への受験を奨励し、合格者を継続的に輩出することで、飼育現場全体での技術向上につなげる必要がある。

③ 種の保存

【努力した点や成果】

- オグロヅルの人工繁殖に向け、毎月1～2回採精練習を行った。
繁殖相手方（他園）からの依頼を受けて計6回採精を試み、うち1回採精に成功した。
- 貴重な血統のニホンイヌワシの有精卵2個を秋田市大森山動物園から譲り受けて当園飼育個体に托卵し、令和7年4月に2卵とも孵化に成功した。その後1羽は死亡したが、残り1羽が成育中である。
- オオサンショウウオ調査について、兵庫県自然保護協会と連携して大阪府内の調査に同行してきたが、これまでの調査実績が認められ、令和7年度より当園職員のみでの定期調査が可能となった。また、同協会にて現在問題となっているチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種（特定外来生物）に対する防除確認申請を環境省あてに行い、防除従事者として職員2名を登録した。

【課題】

- 他の繁殖推進種についても繁殖につながるよう、チェックポイント（※）の検証等を行い、チェックポイントの項目に基づいた取り組みを継続していく必要がある。
- 今後も繁殖に取り組みつつ、生息域内保全につながる啓発活動を継続していく必要がある。

※チェックポイント：繁殖推進種における環境整備等の取り組み（発情周期の把握、情報収集等）をまとめたもの。

④ 施設の整備・適正な維持管理

【努力した点や成果】

- 施工業者と定例的（1～2週に1回）に会議を開催し、工事の進捗管理及びコスト削減に向けた調整を行い、予算内・工期内でアジアの森ゾーン・ホッキョクグマ舎の整備を行うことができた。
- 掲示物・デジタルサイネージ等により工事内容・状況を掲示したことで、来園者アンケートでも「ホッキョクグマ舎の工事についてよくわかった」との意見を多数いただくなどの高評価を受けた。

【課題】

- 引き続き、予算・工程管理に留意しながら綿密に獣舎整備に取り組んでいく必要がある。

⑤ 来園者の行動変容を促す教育活動

【努力した点や成果】

- 教育普及アクションプランに基づき、ディスカバー・プログラム（企画展・教育普及イベント、飼育体験講座等）を実施した。同プログラムは、未就学児から小・中・高校生、大学生等の教育機関に加え、一般来園者や団体も対象とし、講話、ガイド、職業体験、企画展など、それぞれの対象に応じた多様な学びの機会を提供している。特に、令和7年3月～4月に開催した企画展「生物多様性展～ウンチがつなぐしぜんの『わ』～」や、8月の企画展「戦時中の動物園展～語りつぐ、いのちの記憶～」では、アンケートにおいて来園者の行動変容につながっているとうかがえる回答を8割以上得ることができた。

※アンケート総数：生物多様性展 490 件、戦時中の動物園展 470 件）。具体的には、生物多様性展では「環境認証マークのある製品を進んで選びたい」「仕事で関わっている子どもたちと自然へのわくわくを共有したい」「生物多様性について周りに伝えていきたい」などの回答が寄せられた。また、戦時中の動物園展では「戦争について伝えたい、考えたい」といった回答が多くみられ、来園者の意識や今後の行動につながる教育的効果が確認された。

【教育活動の実施状況】

※3月末現在	実施件数
かんさつじかん	1,195
ごはん・おやつタイム	859
ディスカバー・プログラム	277
企画展・教育普及イベント	113

- 来園者対象のエンリッチメントツール作成ワークショップを開催し、参加者に環境エンリッチメントについて学んでいただいた。

【課題】

- 今回は概ね行動変容につながっているとの結果になったが、より高い教育効果が得られるように適宜内容を見直し、引き続きアンケートにより検証していく。

⑥ 調査研究の推進

【努力した点や成果】

- 昨年度に引き続いて飼育各班において、担当動物の日々の飼育管理や行動観察の中で得られた気づきや課題をもとに、動物福祉の向上や飼育環境の改善等につながるテーマを主体的に決定し、研究を進めているほか、外部機関との共同研究を積極的に実施し、HP で公表した。

【課題】

- 研究を発表や論文等の形で出すまでには一定期間が必要となり、すぐに成果が得られない場合もある。一方で、継続的に取り組むことで知見を着実に蓄積でき、飼育技術の向上等の成果につながる事が見込まれるため、引き続き長期的な視点で取り組みを継続していく。

2 動物園の魅力向上について

【努力した点や成果】

- 令和7年1月1日に開園110周年を迎え、4月以降もモーニングズーや110周年記念スタンプラリー、来園者110万人目セレモニーなど記念イベントを継続的に実施した。
- 令和7年4月より「大阪・関西万博」が開催されたことから、大阪・関西万博の広報に協力するほか、園内にインフォメーションセンターを設置し、来園者に万博関連の情報を提供した。
また、各獣舎にQRコードを掲出することで、15言語による動物の紹介や解説をスマートフォンで閲覧できるようにし、外国人来園者にもわかりやすく情報を届けるなど、国内外の来園者に「おもてなし」を行った。
- ホスピタリティ研修等を実施している専門家による覆面調査を行い、ホスピタリティマインドの定着状況を把握した。その結果を踏まえた研修を実施し、職員の接遇意識および来園者対応の質の向上を図った。
- アンケートについて、ボランティアクラブ1915の方による園内でのアンケート調査を開始した結果、幅広い層の来園者からのお声をいただくことができ、案

内掲示や動物紹介を追加するなどのサービス改善につなげることができた。

【課題】

- 屋外休憩所の整備、テーブルベンチ・ミストの設置、簡易テントの設置など暑さ対策に取り組んだものの、来園者からは涼しい休憩所や日陰を求める意見が寄せられており、さらなる対策を講じる必要がある。

3 経営・組織・運営について

【努力した点や成果】

- 入園券について、万博チケット提示割引やミオクラブ会員割引等を開始し、入園者数増に努めた。
- 収入の確保について寄附付き入園券及びガチャ付き入園券の運用を開始した。また、ライオン募金の投入口を広げ、硬貨だけでなく紙幣の投入も可能とするなどし、目標額（13 百万円）を大きく上回る約 83 百万の寄附を獲得した。
- ファンクラブについて、特典内容を会員ニーズに合わせて改善するほか、限定缶バッジ企画で口数拡大を図った。また、園内放送・ゲート掲出で認知を強化し、限定イベント参加を契機に新規加入（プレミアム 200 名（前年度比 119%、スマート 71 名（前年度比 124.6%））も獲得した。
- 園内事業者と連携し、既存商品に加え 110 周年オリジナルグッズの開発を行い販売した結果、歩合収益額が前年対比（4 月～3 月）5 百万円増となった。
- 令和 3 年度以来の 2 回目のクラウドファンディングを実施し、両ゲートでの募金箱の設置や直接受領の新たな方策を含め、各種取り組みの効果により目標額（1st ゴール 14 百万円、2nd ゴール 22 百万円）を上回る約 24 百万円ものご支援をいただくことができた。
- ヒヤリハットについては、発生した案件を毎月の職場安全衛生委員会および飼育連絡会で共有し、再発防止対策について議論したうえで職員への周知を行うとともに、令和 7 年度での安全対策研修については、令和 6 年 1 月に JAZA 安全対策部がオンラインで実施した「特定動物の安全対策についてのガイドライン」の講習会をアップデートした形で実施した。また、特定動物の飼育管理においては、複数人での施錠確認を徹底し、動物舎において新たに動物の居室を示す看板や指差確認喚呼を促すプレートを設置した。さらに新たに特定動物を飼育する動物舎に監視カメラを整備し、動物の不在誤認による立ち入り事故を防ぐとともに、逸走防止と職員の安全対策を強化した。
- 資格取得支援制度について、これまでの運用及び昨年度の大阪市からの監査委員監査での指摘事項を踏まえ対象資格について簿記を追加したほか、運用方法の見直しを行った。

- 人材の確保・育成について

以下のとおり、実習生を受入れ、社会的な人材育成にも努めている。

	担当課	受入人数	実習期間（各人）
獣医学実習生	動物診療課	10 名	14 日間 （6～1 月）
学芸員実習生	飼育展示課	15 名	10 日間 （8 月）
飼育実習生	飼育展示課	8 名	14 日間 （6～2 月）
動物園実習生	運営課・ 飼育展示課	4 名	5 日間 （9～11 月）

【課題】

- 周辺施設との連携や海外用 web 販売等、新たな取り組みを行ったものの、大阪・関西万博の開催により、他施設と同様に観光需要が万博会場周辺へ集中したことや、全国的に観測史上最高水準（前年+2.36℃）の猛暑が長期化（5 月～10 月）したことによる影響もあり、入園者数は予算に比し減となった。今後さらなる誘客に向けた対策を検討する必要がある。
- 当組織では、内部統制の強化の観点から、コンプライアンス研修や服務研修を継続的に実施し、服務規律の確保に努めてきたが、3 件※の不祥事が発生した。各事案については、関係規程に基づき厳正に対処したが、今後は、改めて規程を周知徹底するとともに、研修の一層の充実や継続的な注意喚起を通じて、再発防止とコンプライアンス意識のさらなる向上に取り組む必要がある。
※メールの誤送信による個人情報漏えい、理事長の許可を得ない兼業（アルバイト）、給与不適正受給